

学科名	生物環境化学科					
科目名	生物環境化学基礎実験					
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期	
必修・選択の別	必修					
担当者	藤井、松本、湯浅、神武					
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・危険薬品の取り扱い方、実験器具の取り扱い方、汎用の分析機器の取り扱い方に関する知識、技術を持っている。 ・レポート作成上必要な有効数字を正しく使用でき、数値の丸め方が正しくできる。 ・測定データの取り方、データの整理の仕方を正しくできる。 ・結果の考察の仕方、レポートの書き方が正しくできる。 					
日程と内容	<p>4/14：導入講義-実験のテキストの配布。本実験の目的。実験の進め方。成績の評価法等の説明。白衣採寸。</p> <p>4/21：実験の為の安全教育-危険物質・有害物質の取り扱い、実験器具の講習-ガラス器具、天秤、化学便覧の使用法など、実験を行うための基礎知識を身につける-実験器具の取り扱いとレポートの書き方についての説明</p> <p>4/28：実験器具の校正とデータ整理-質量と誤差を理解するために-</p> <p>5/9：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>5/12：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>5/19：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>5/26：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>6/2：中和滴定（食酢中の酢酸の定量）-定量分析の基礎</p> <p>6/9：鎮痛剤の化学合成-有機合成化学の基礎-</p> <p>6/16：分離操作（TLC、ペーパークロマト）-分離操作の基礎</p> <p>6/23：分子量測定（酢酸メチルの分子量）-化学量論の理解</p> <p>6/30：工場見学</p> <p>7/7：プレゼンテーション(I) 実験結果の発表会を行う。</p> <p>7/14：追加実験</p> <p>7/22：廃液処理と実験の後片付け</p>					
成績評価基準	定期試験			実技		50%
	臨時試験			部外評価		
	報告書・レポート	50%		プレゼンテーション		
	課題 演習			計		100%
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・危険薬品の取り扱い方、実験器具の取り扱い方、汎用の分析機器の取り扱い方に関する知識、技術を持っている。:達成した。 ・レポート作成上必要な有効数字を正しく使用でき、数値の丸め方が正しくできる。:達成した。 ・測定データの取り方、データの整理の仕方を正しくできる。:達成した。 ・結果の考察の仕方、レポートの書き方が正しくできる。:達成した。 					
反省点	授業評価8.7/10点で、特に不満や要望等のコメントはなかった。不満点や要望点として、「説明で専門用語が多い」「先生によって意見がまったく違う」「参考文献を読んでも不明な点があり、説明を受けても分かりにくい点があった」等の意見があった。					
来年度の計画	学生間によって、理解度がかなり異なっていた。例年、理解不足の学生には個別指導しているが、来年度は学生の理解度を把握し、より個別指導に力を入れたい。					
授業評価アンケートに対するコメント	特になし					
履修登録者数	65名	定期試験 受験者数		合格者数	65名	合格率 65000%